

弘大医学部附属病院 クリスマスコンサート

演奏 弘前大学医学部管弦楽団

指揮：馬場正之 (青森県立中央病院 医療顧問)

オーボエ・ソロ：各務 萌 (医学部6年)

弘前大学医学部管弦楽団について
音楽顧問・指揮者 馬場正之

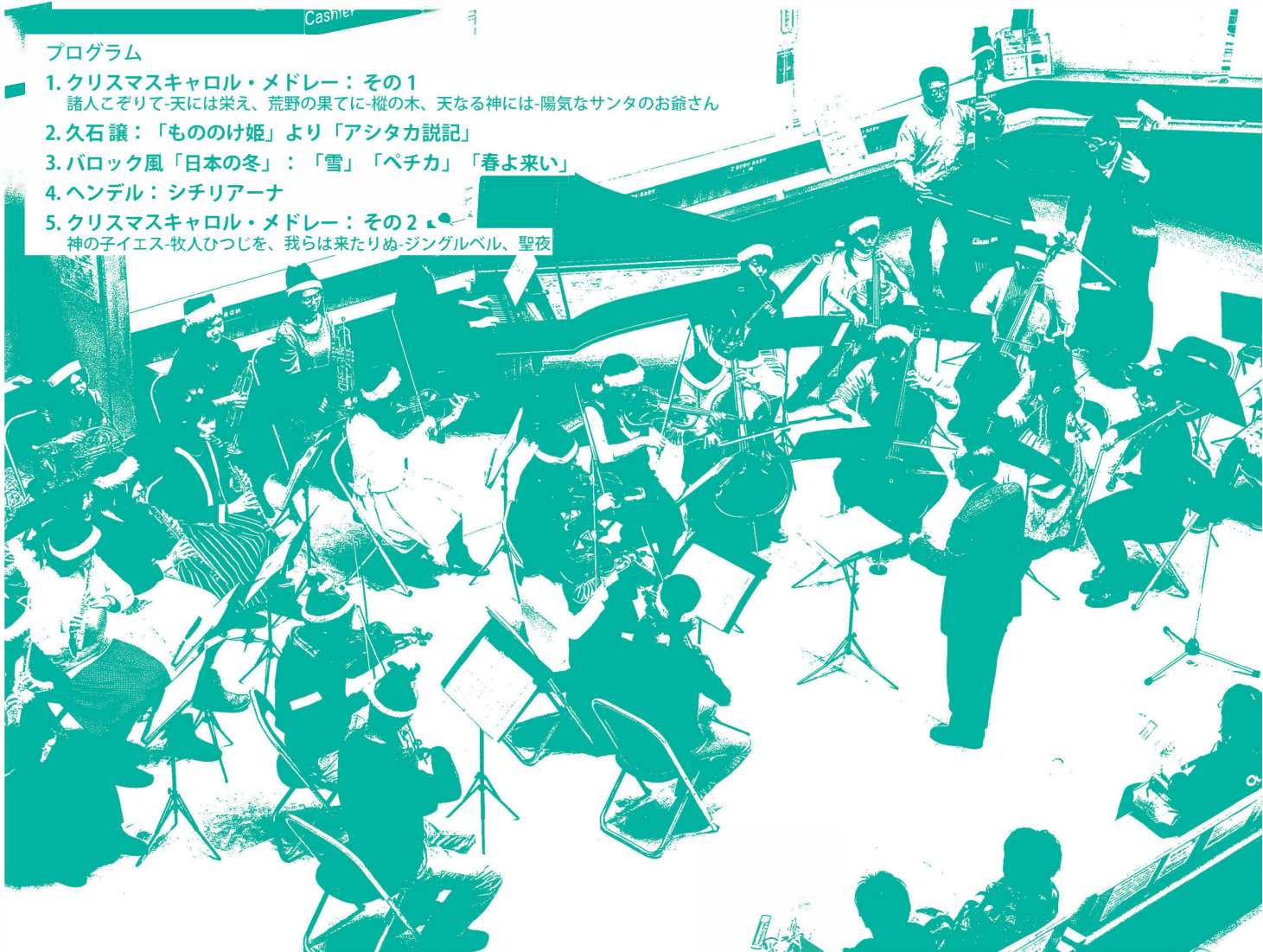
弘前大学医学部管弦楽団は弘大医学部創立50周年の1994年に結成された室内オーケストラです。そのときの記念式典で医学部職員と学生によるバッハ管弦楽組曲の祝賀演奏（フルート独奏：馬場正之）が関係者に感銘を与えたことから、医学部長や関係教員ご尽力の結果、学生と教職員による当楽団が正式に立ち上げられ、当時の耳鼻科教授でヴァイオリン奏者の新川秀一氏をリーダーとし、教養部で音楽科の今井民子教授と共に古典音楽楽理を講じていた馬場神経内科助教授を常任指揮者として活動を開始しました。あれから20数年、新川教授が退職なされ、馬場が県立中央病院に移動した後も当管弦楽団は活発な活動を続け、今日まで沢山の医学部学生が音楽づくりの楽しみを身につけて築きました。主たる演奏の場は弘大病院や県病での四季折々の院内コンサート、弘大祭コンサート、解剖体慰霊祭および医学部関連学会の懇親会ミニコンサートなどです。ほとんどの学生は医学部入学後に初めて楽器を手にした初心者ですが、一人ひとりが積極的に合奏に加わる室内楽的な響きを目指して練習を積み重ねています。これまで取り上げてきた曲は、ブランデンブルクや協奏曲や管弦楽組曲、ヴァイオリン・コンチェルト、チェンバロ・コンチェルトなど多数のバッハ作品、バッハの息子達やテレマン、バッハベル、ヘンデル、コレリリ、ヴィヴァルディ、ラモーなど種々のバロック管弦楽作品、そしてハイドン、モーツァルトの交響曲やセレナーデなど。

今夕のクリスマスキャロル演奏には、今春入学後に初めて楽器を手にした新入生が半年の練習期間を経て、初めて合奏に加わります。また、この3月に無事卒業を迎える元部長でオーボエ担当の各務 萌さんがヘンデルのクリスマス音楽シチリアーナを独奏します。勉学の合間に一生懸命練習してきた学生たちに拍手を！

(MON) 2019 12/23
PM 6:45~
外来待合ホール

プログラム

1. クリスマスキャロル・メドレー：その1
諸人ございて-天には栄え、荒野の果てに-樅の木、天なる神には-陽気なサンタのお爺さん
2. 久石 譲：「もののけ姫」より「アシタカ説記」
3. バロック風「日本の冬」：「雪」「ペチカ」「春よ来い」
4. ヘンデル：シチリアーナ
5. クリスマスキャロル・メドレー：その2
神の子イエス-牧人ひつじを、我らは来たりぬ-ジングルベル、聖夜



主催：弘前大学医学部附属病院

協賛：一般財団法人 弘仁会